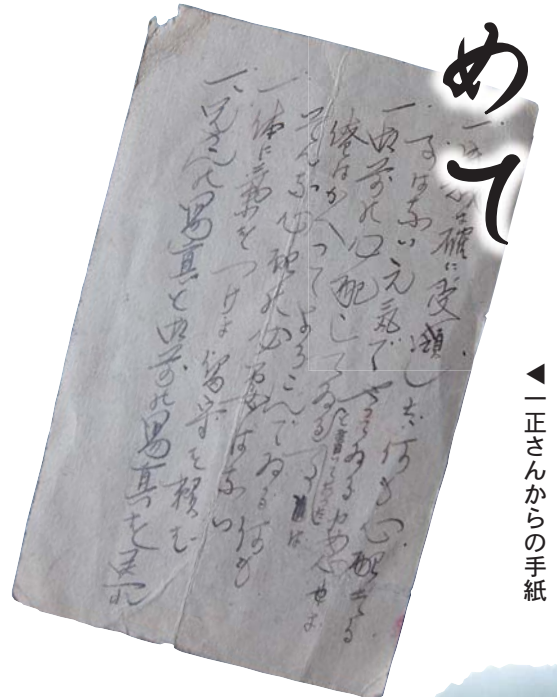
終戦記念特集

残された命を抱きしめて

昭和20年5月16日、小松一正さんは沖縄における地上戦に従軍し、その命を落としました。25歳の若さでした。その時、妻の智雄さんは20歳。
終戦から70年。私たちは両親や祖父母が経験した悲惨な過去を繰り返してはなりません。
戦争により引き裂かれ、遺族となった悲しみを、小松智雄さんに伺いました。

◀一正さんからの手紙

戦争の犠牲になった兄

私は6人兄妹の末っ子で、3人の兄たちは皆、戦争に行きました。
1番上の兄は、支那事変で右腕を銃で撃たれ、肩から先を失いました。
2番目の兄は航空隊に所属し、主に通信士をしていました。樺太での演習中、深い霧に視界を奪われ、墜落して命を落としました。
3番目の兄は、戦地において野戦病院へ医者を運ぶ運転手をしていました。
私は父母を幼くして亡くし、片腕を失った1番上の兄が親代わりとなって育ててくれました。

8カ月の結婚生活

夫となる一正は20歳の頃から従軍しており、24歳のときに帰ってきました。「いつまた戦地に行くようになるか分からないから」と、周りから結婚を強く勧められたようです。
私は姉から「とてもいい方だから」と一正を紹介されましたが、その時私はまだ19歳。夢もあり、友達と遊びたい盛りでもありました。結婚すると決まった時は、友達と肩を寄せ合って泣いたのを覚えています。
それでも、結婚生活は穏やかで幸せなものでした。しかし、結婚して8カ月後、夫は再び戦争へ行かなくてはならなくなったのです。
昭和19年9月、善通寺にあった陸軍施設に出立する日、義理の姉2人と私で、夫の見送りに行きました。土佐山田駅から鉄道で行くのですが、兵隊として出立する者は切符は不要。汽車に乗る人数が限られているため、付き添いとしてもう1人だけ、切符を買うことが許されました。
私は別れがつらく、帰りに1人で汽車に乗るのが不安だったこともあって、義理の姉に付き添ってもらうよう頼みました。しかし夫は、私に付き添ってほしいと言いました。最後の別れになるかもしれないという思いがあったのかもしれません。「帰りは汽車に乗るところまで私が見届けて、帰らせるようにするから」と私に言い聞かせました。
そんなやり取りを聞いていた駅長さんが手招きして私を呼び、1枚しか買えないはずの切符をもう1枚、こっそり渡してくれました。

小松智雄さん（89歳）
香北町佐敷

夫が残してくれたもの

その数カ月後、沖縄での防衛戦に備え、夫は、善通寺から沖縄へ向かうこととなりました。それを前に面会が許され、義理の姉2人とともに会いに行くことができました。
汽車に揺られながらの帰り道、私は次第に気分が悪くなり、吐き気をもよおしてきました。汽車の揺れに酔ったか、長旅の疲れが出たか。何とか美良布まで帰り着き、病院で診てもらってから帰ることにしました。
そこで医者から聞かされたのは意外な言葉でした。「これは病じゃないぞ。めでたいことじゃ」たった8カ月の結婚生活でしたが、夫はかけがえのない大切な命を残してくれたのです。
そして数日後、夫から「沖縄に無事着いた」という手紙が届きました。義理の母は私に、「すぐ返事の手紙を書いて、子どもを授かったことを伝えてあげなさい」と言いました。
夫は、わが子ができたことが心底うれしかったに違いありません。その心情をつづった手紙は、宝物として今も大切にしています。

死にゆく命、生まれる命

私たちの子は、昭和20年5月14日に生まれました。産気づいた私を、義理の母や姉、近所の産婆さんらが介助してくれました。
お産の最中、赤岡の空へ向けて米軍機が飛んでいきました。義理の母はやりきれない表情を浮かべて言いました。
「おお、B29が行きゆう。夫が生き死にの戦いをしゆうときに、ここでは嫁が子もうけ（出産）をしゆう。難儀なことねえ」
夫が沖縄で戦死したのは5月16日。子どもが生まれた2日後のことでした。
私たちは、戦争に多くのものを奪われました。夢や青春、大切な人、穏やかで幸せな暮らし。
私が夫を亡くしたのと同じように、戦争によって未亡人となった人が、近所に2人いました。私たち3人は、似た境遇を慰めながら、手を取り合って暮らしました。残された子どもの成長を心の支えに、汗や土にまみれて、朝から晩まで働きました。
戦争は不幸を生むだけです。二度と繰り返すことのないように、戦争の悲惨さを伝え続けていかなくてはなりません。

香美市の平和活動

非核・平和宣言都市

核兵器の廃絶と平和を願う全ての人々と相携えて行動することを決意し、平成18年5月25日、『非核・平和都市』宣言を行い、『日本非核宣言自治体協議会』に加入しました。

平和市長会議への加盟

平成22年1月1日に『核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画』に賛同する世界各国の都市で構成されている平和市長会議に加盟しています。

香美市戦没者追悼式

香美市では、毎年、戦没者の追悼式を行っています。今年は5月15日に、中央公民館で行われました。
式では黙とう・献花に続き、鏡野中学校を代表して、岩井結咲さんが平和の作文を朗読しました。参列者らは、若い世代からのメッセージを受け取り、恒久平和への誓いを新たにするとともに、戦争で尊い命を落とされた方々のご冥福を祈りました。

ヒロシマ・ナガサキ被爆ポスター展

8月1日～31日まで、市役所1階ロビー・香北支所・物部支所で『ヒロシマ・ナガサキ被爆の実相等に関するポスター展』を開催します。

黙とうをささげましょう

広島市原爆投下時刻
8月6日午前8時15分
長崎市原爆投下時刻
8月9日午前11時2分
終戦記念日
8月15日正午

税関では、終戦当時に外地から引き揚げて来られた方からお預かりした通貨・証券等をお返ししています。お心あたりのある方はご連絡ください。　【問い合わせ先】高知税関支署　☎088・832・6131

第10回特別弔慰金受付中！　戦没者等の死亡当時のご遺族で恩給等を受けていない方が対象です。詳しくはお問い合わせください。　【問い合わせ先】福祉事務所　☎53・3117